

さきごろ文藝春秋より『東京、はじまる』という本を出した。

史上初の日本人建築家というべき辰野金吾を主人公とした歴史小説である。金吾の出世作はもちろん日本銀行本店だから、その設計および建設工事については特に念入りに記したが、その工事には、じつはのちのち総理大臣になる人も参加している。

高橋是清。ただし正式な行員ではなく建築事務所の所員、つまり金吾の部下である。事務主任として雇われたのだ。

このまだ三十代の主任さんは、しかし発想が奔放だった。何しろ前例のない工事だから工期の遅れが深刻だったが、或る日、日銀総裁・川田小一郎へ、

「一万円だけ自由に使わせてください」

だけと言われても、総工事費の見積りは八十万円なのだから少額ではない。

川田は、怒りっぽい人である。おそらく爆発寸前の顔で、

「何に使うのだ」

「この工事は大倉組に請け負わせ、大倉組がまた四人の石工の親方に下請けさせておりますが、この四人はたびたび賃金の値上げを要求し、拒否されると同盟して仕事を休む。そのくりかえ



絵・江口修平

## 懸賞金一万円

門井慶喜

しで工事がここまで遅れたのです」

「……」

「だから今後はまず大倉組との契約を解除し、われわれ（建築事務所）がじかに四人それぞれと契約をむすぶ。その上でひとりにつき建物の一角ずつを請け負わせ、期日に遅れたら一日五百円の罰金をとる。期日前に仕上げたら、逆に、同額の賞金を出すこととしましょう。その賞金のために使います」

川田総裁はよろこんで、

「金はそういうふうに使わねばならぬ」

と言ったそうで、事実、この作戦は成功した。四人の親方は同盟どころか競争するようになり、工事はにわかに進捗したのだ。それでもまあ、結局のところ完成は一年以上も遅れたのだが。

是清は、その働きがみとめられた。正式な行員になったのである。あとは階段をのぼるだけ。

日銀西部支店長、横浜正金銀行副頭取、日銀総裁。

さらには山本権兵衛内閣の大蔵大臣となり、総理大臣となった。私はもちろん是清のように大金が動かせる人間ではないけれど、それでも『東京、はじまる』は好調で、着々と版をかさねている。おかげで財布もほんの少しだけ、日本銀行券でふくらんでいる。

かどいよしのぶ●作家。1971年群馬県生まれ。2003年「キッドナップーズ」でオール讀物推理小説新人賞を受賞。16年「マジカル・ヒストリー・ツアー」で日本推理作家協会賞（評論その他の部門）、18年には「銀河鉄道の父」で直木賞を受賞。新著は建築家・辰野金吾を描く『東京、はじまる』。ほか万城目学との共著『ぼくらの近代建築デラックス!』など著書多数。

